

2010年度 第1期
第5回 子宮頸がんの診断と治療

子宮頸がん

産婦人科 石田大助

2010年9月10日発行

1.子宮頸がんの診断

診断の第一歩は、産婦人科受診をしていただくことです。あたりまえのことのようですが、これがもっとも大切なことです。産婦人科診察（内診）に対して抵抗感のある女性が多いと思われませんが、子宮頸がんの診断は数分間の内診、子宮頸部の細胞診、組織診で確定することができます。他のがん（胃がん、大腸がんなど）と比較すると非常に短い時間で、かなり確実な診断をつけることが可能です。子宮頸がんの診断がついた場合には、病気の進行の状態を把握するために、画像検査（MRI検査、CT検査）や血液検査（腫瘍マーカー検査）を行います。

2.子宮頸がんの進行期

腫瘍の広がりによって、腫瘍が子宮頸部の表面（上皮内）にとどまる0期から、腫瘍が骨盤外まで進展したⅣ期までに分けられます。（表1、図1）

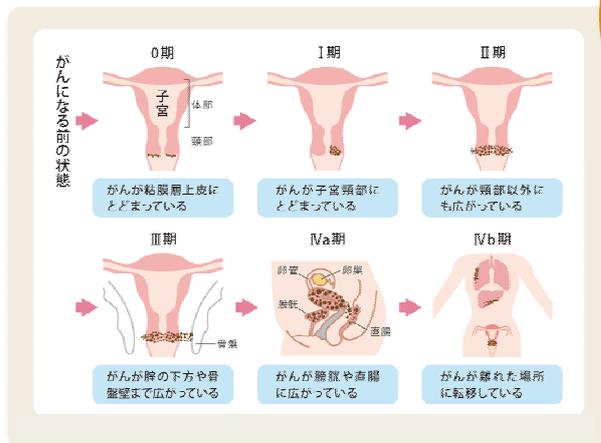
表1 子宮頸がん進行期分類

0期	上皮内がん
I期	がんが子宮頸部に限局する
II期	がんが頸部を越えて広がっているが、骨盤壁または腔壁下1/3に達していない
III期	がんが骨盤壁に達するか、腔壁浸潤が下1/3に達する
IV期	がんが小骨盤腔を越えて広がるか、膀胱、直腸の粘膜を侵す

図1

子宮頸がんになっても、
初めのうちは自覚症状がありません。

がんが進行するにつれて、出血やおりものの異常、
お腹や腰の痛みがあらわれることがあります。



症状がなければ
安心というわけでは
ないのね。



3.子宮頸がんの治療

子宮頸がんの治療は、手術、放射線治療、化学療法(抗がん剤治療)の3種類のいずれか、またはいくつかの組み合わせでおこないます。子宮頸がんの進行期によって治療法が決まります。ただし、患者さんの年齢、健康状態(他に病気をもっておられるかどうかなど)今後の妊娠出産を望んでおられるかなども考慮して最終的に決定することになります。

早期(0期～ 期の一部)に発見されれば、治療法として子宮頸部円錐切除術を選ぶことができます。その場合、子宮を残すことができるため、妊娠出産のチャンスを失わずにすみますし、治療による体への負担も少なくてすみます。そのほかの場合でも発見が早いほど治療の負担は少なく、治療の効果は高いことが多いです。(表 2, 図 2)

表 2 子宮頸がん治療法

手術

0期～ 期に対して行われます。

- ・0期～ 期の一部：
子宮頸部円錐切除術
または単純子宮全摘術
- ・ 期の一部～ 期：
広汎性子宮全摘術

放射線治療

期～ 期に対して行われます。

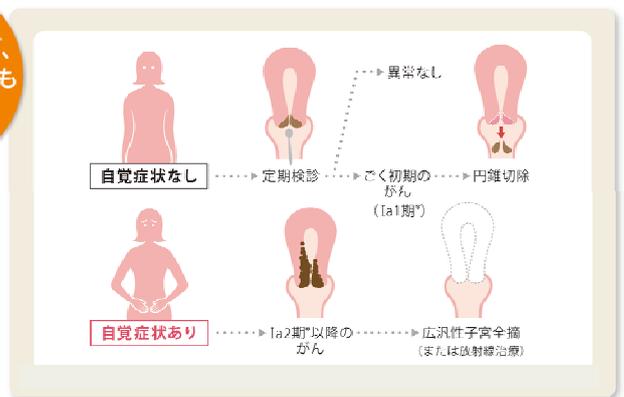
化学療法

放射線治療と組み合わせて行われることが多いです。

図 2

子宮頸がんは、発見が早いほど治療の効果が期待できます。

早くみつけば、子宮を残すこともできるのね。



子宮頸がんの期は、軽い方から a1 期、 a2 期、 b1 期、 b2 期に分類される。

4.早期発見のために提案

子宮頸がんの自覚症状としては、帯下(ピンク色、赤色、黄色、茶色のおりもの)の増加、不正性器出血(生理以外の性器出血、閉経後の性器出血、性交後の性器出血)、下腹痛、腰痛などがあります。これらの症状が有る場合には、早急に産婦人科を受診していただきたいと考えます。がんでなければ安心できますし、がんであればそこから治療を始めることができます。

さらに早期に発見するために、自覚症状がないうちから、定期的に産婦人科健診を受けていただくことを強くおすすめします。各自治体で成人女性に対して、数年に1回(名古屋市では2年に1回)子宮頸がん検査の補助金が準備されています。それをきっかけとして受診していただくことは、とても良いことと考えます。

またご結婚前に子宮、卵巣などの健康診断をブライダルチェックとしてうけていただくこと、節目の誕生日を機会に健康診断をうけていただくこと、ご自身の職場やご家族の職場の健康診断をうけていただくこともよいと思います。そのほかご自身でなにかのきっかけを利用して是非、産婦人科健診をうけてください。それがあなたやあなたの周りの方々にとって非常に大切な第一歩となります。

次回 第6回 妊娠と子宮頸がん

産婦人科 宮下 由妃 先生

2010年9月下旬配付予定

この内容は、名古屋掖済会病院ホームページでもご覧頂けます。

えきさいかい



名古屋掖済会病院は、愛知県「がん診療拠点病院」の指定を受けました。

第3,4回では、名称に誤りがありました。お詫び申し上げます。